

KVK 後付け自動水栓 施工説明書











E1702・E1703〈各仕様共通〉






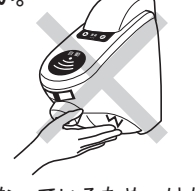
施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意






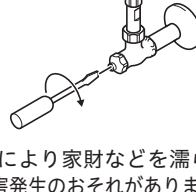
- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

 この絵表示は、してはいいない「禁止」の内容です	 この絵表示は、「分解禁止」の内容です	 この絵表示は、「接触禁止」の内容です	 この絵表示は、「水場使用禁止」の内容です
 この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です			

警告	<p>本体に水を直接かけないでください。</p>   <p>火災や感電の原因になります。</p>	<p>加工および接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。</p>   <p>器具が破損し、けがをしたり、漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓(給水管含む)には絶対に通電しないでください。</p>   <p>通電すると水栓や給水管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
	<p>分解したり、修理・改造はしないでください。</p>   <p>火災や感電の原因になります。</p>	<p>浴室などの湿気の多い場所には設置しないでください。</p>   <p>故障や感電のおそれがあります。</p>	

注意	<p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p>   <p>器具が破損し、けがをしたり、漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>センサー面を傷つけないようにしてください。</p>   <p>器具が破損するおそれがあります。</p>	<p>本体の正面には強く触らないでください。</p>   <p>鋭利になっているため、けがをするおそれがあります。</p>
-----------	---	--	---

1 ページ

注意	<p>トイレ用洗剤・住宅用洗剤・漂白剤・ベンジン・シンナー・トイレ用ウェットティッシュ・クレンザー・クレゾールを使用しないでください。</p>   <p>発火・ショート・感電・故障の原因となります。</p>	<p>屋外や凍結が予想される場所には設置しないでください。</p>   <p>器具が破損して、漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>ストレーナの清掃は止水栓で必ず水を止めてから行ってください。</p>   <p>水漏れにより家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
-----------	---	---	---

取り付け前に

使用電源	リチウム電池2CR5 (DC 6V) × 1個
使用流体	1~40°Cの上水道水(氷結、ゴミ等の混入が無い事)
使用環境	温度 1~50°C
給水圧力	最低必要水圧 : 0.05MPa(動水圧) 最高水圧 : 0.7MPa(静水圧)
センサ方式	赤外線反射方式
乾電池寿命	100回/日の使用頻度として約3年 使用環境によって電池寿命は変動します

- ※同梱されている乾電池は動作確認用です。お早めに新しい電池にお取り替えください。
- ① 給水圧力が0.7MPaを越えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
 - ② 本製品は改造、加工および接合、市販浄水器具の取り付け等によるトラブルについては保証の限りではありません。
 - ③ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。
 - ④ センサーの表面を傷つけないように十分注意してください。
 - ⑤ インバーターや赤外線を用いた他の機器により誤作動することがあります。
 - ⑥ 直射日光が当たらないところに設置してください。
 - ⑦ ステンレス製およびめっきを施した手洗器や洗面器に取り付けると誤作動するおそれがあります。
 - ⑧ 既設水栓のメーカーと品番を確かめ、本製品が既設水栓に適合する品番が確認してください。
 - ⑨ 本製品取り付け後はホースを使用しての散水などはできませんので、ホース等を使用される場合は、配管部に分岐水栓を取り付けてください。取り付けの際は水道工事店様にご相談ください。

故障かなと思ったら…

修理を依頼される前にお確かめください。

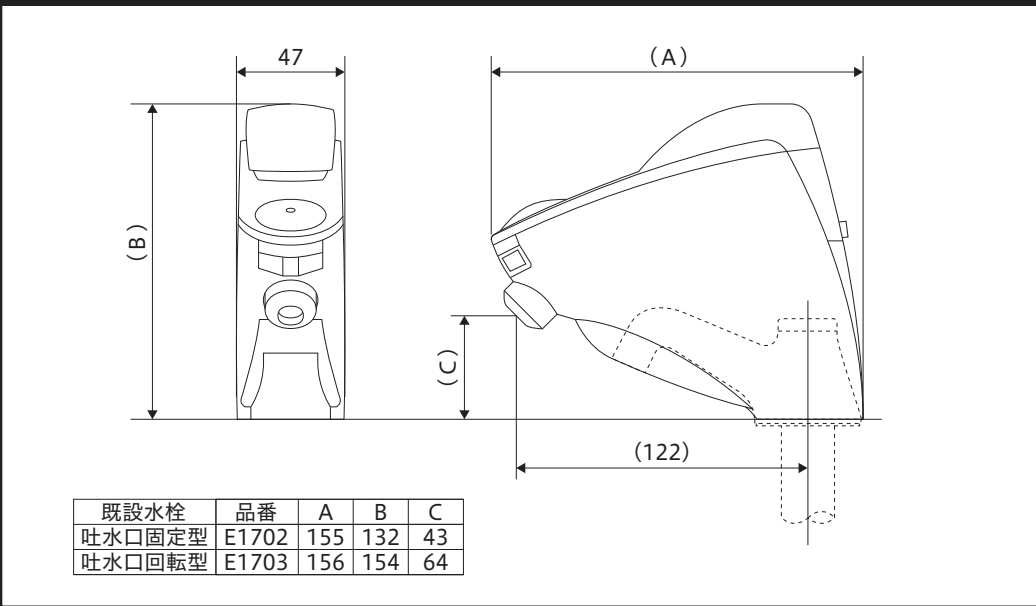
➡ **取扱説明書「故障かなと思ったら…」参照**

【水栓本体内部のメンテナンスをする場合】

【**注意**】修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご相談ください。

2 ページ

寸法図



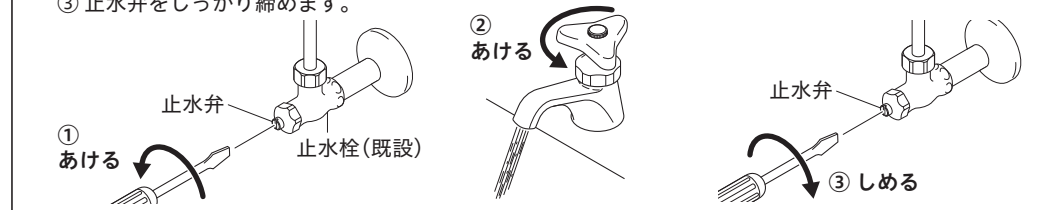
既設水栓	品番	A	B	C
吐水口固定型	E1702	155	132	43
吐水口回転型	E1703	156	154	64

3 ページ

取り付け手順 1

1 給水管内の清掃
水栓ハンドルを取りはずす前に、必ず配管内の異物を完全に洗い流してください。

- ① 止水弁を全開にします。
- ② 水栓を開けて、5~10秒間吐水します。
- ③ 止水弁をしっかり締めます。

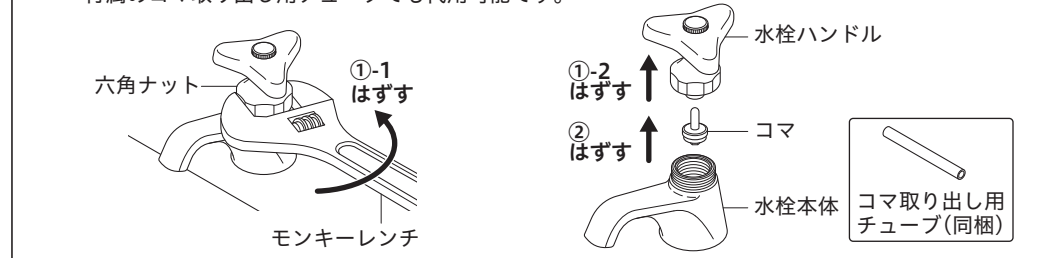


2 水栓ハンドルの取りはずし
六角ナットが見えている場合

- ① 水栓ハンドルの六角ナットにモンキーレンチを掛け反時計回りに回してはずし、水栓ハンドルを取りはずします。

【お願い】水栓本体と一緒に回らないように、手でしっかりと押さえてください。

- ② 吊りコマ式以外の場合 ピンセット等で水栓内部に残っているコマを取り出します。付属のコマ取り出し用チューブでも代用可能です。

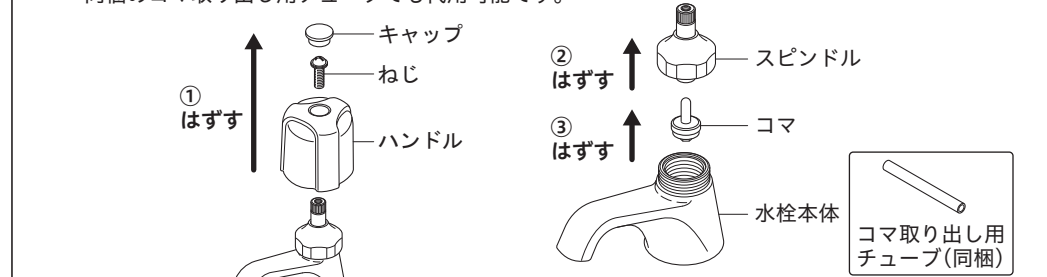


六角ナットが見えていない場合

- ① 水栓からキャップ、ねじ、ハンドルの順に取りはずします。
- ② モンキーレンチを六角ナットに掛け反時計回りに回して、スピンドルを取りはずします。

【お願い】水栓本体と一緒に回らないように、手でしっかりと押さえてください。

- ③ 吊りコマ式以外の場合 ピンセット等で水栓内部に残っているコマを取り出します。同梱のコマ取り出し用チューブでも代用可能です。



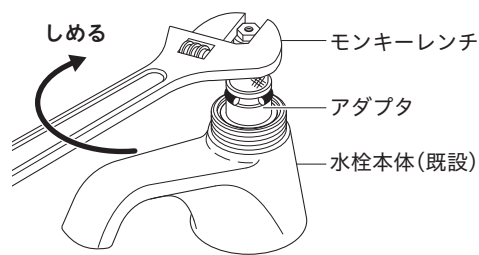
【お願い】取りはずした水栓ハンドル・コマは保管しておいてください。元の立水栓に戻す際、必要になります。

4 ページ

取り付け手順 2

3 アダプタの取り付け

水栓本体にアダプタを取り付けます。
手締め後、モンキーレンチでしっかり締め込んでください。
【お願い】水栓本体と一緒に回らないように、手でしっかりと押さえてください。

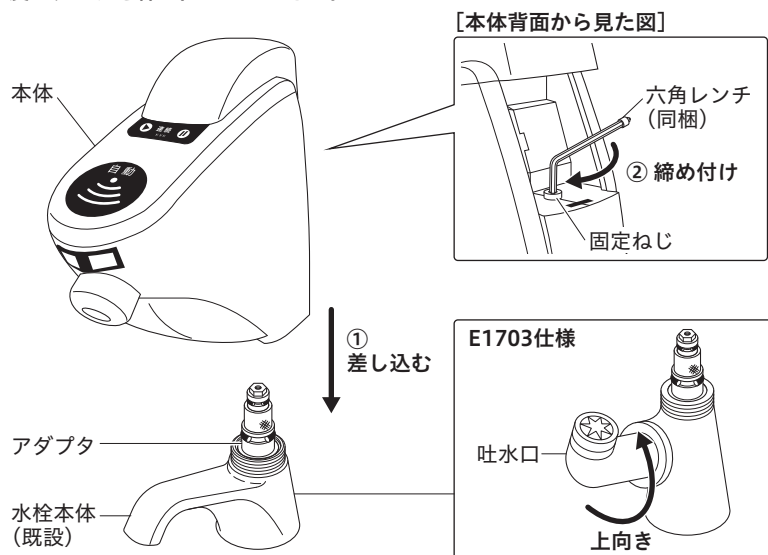


【△注意】
アダプタの取り付け後、ストレーナの位置がズレていないことを確認します。ストレーナがズレていると本体が取り付けられない場合があります。



4 本体の取り付け

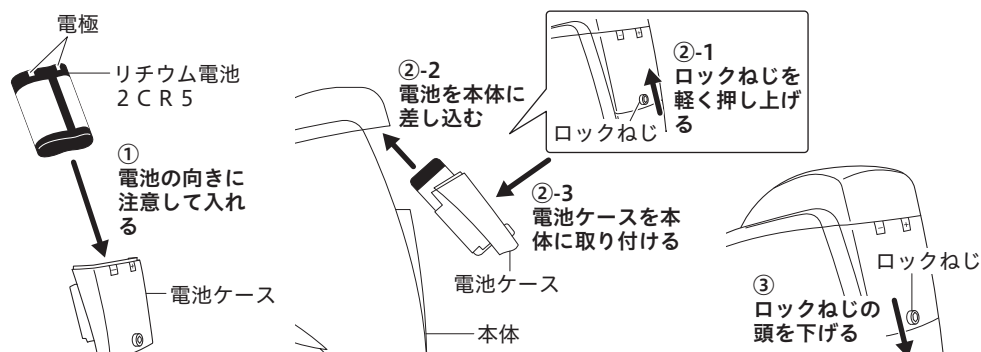
① アダプタに本体を差し込みます。この時、水栓本体は覆われて見えなくなります。E1703仕様の場合、水栓本体の吐水口を上に向けてから本体を取り付けます。
② 本体背面にある固定ねじを六角レンチで締め付け、本体を固定します。
【お願い】固定ねじの締め付けは同梱の六角レンチの長い方で締め付けてから短い方で増し締めしてください。長い方で締め付け過ぎますと、六角レンチの先端部(樹脂部)が破損するおそれがあります。
【△注意】固定ねじを締めても本体ががたつく場合は、アダプタの締め付けが不完全です。アダプタの締め付けが不完全ですと漏水のおそれがありますので、本体を取りはずし、再度アダプタを締め直してください。



5 ページ

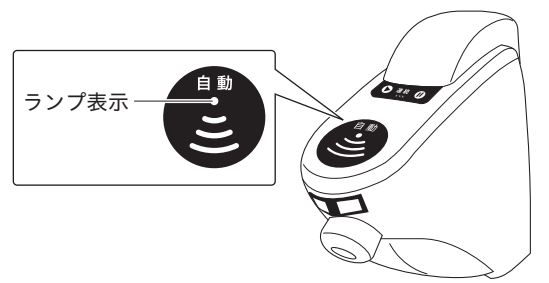
5 乾電池の取り付け

① 付属の乾電池を電極の位置に注意して、電池ケースに入れます。
② 電池ケースのロックねじを指で軽く押し上げながら、電池ケースを本体に取り付けます。この時、まず乾電池を本体に差し込んでから、電池ケースを取り付けます。
③ ロックねじの頭を下に下げます。
【お願い】乾電池を取り付けると直ちに感知距離を確認します。(オレンジランプ点灯センサーに手をかざしたり、陶器内に物を置いたりしないでください。(約2~5秒でこの動作は完了します))



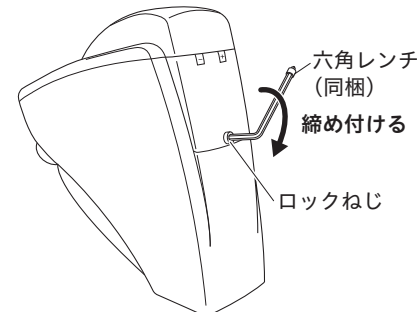
6 ランプ表示の確認

センサーに手をかざしたり、陶器内に物が置いていない状態で、ランプ表示が点滅していないことを確認してください。もしも点滅していれば、本体の向きを左右どちらかに少し変えてください。



7 電池ケースの固定

電池ケースのロックねじを六角レンチで時計回りに回し、締め付けます。
【お願い】ロックねじは締め付け過ぎないでください。締め付け過ぎますと、電池の取りはずしに支障が出るおそれがあります。



6 ページ

取り付け後の点検と清掃

通水確認

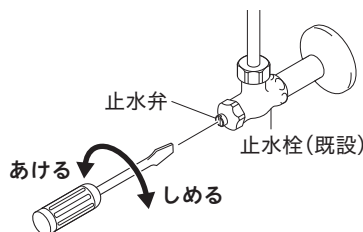
【△注意】水栓取り付け後、通水して水の出し止めに5~6回繰り返し、配管接続部および水栓からの水漏れがないことを確認してください。
確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

- ① 止水弁をあけます。
- ② 手を差し出してセンサーを感知させ、水が出ることを確認します。
- ③ 本体から水漏れがないことを確認してください。



止水栓による流量の調節方法

止水栓による流量の調節方法は右記の方法で行ってください。



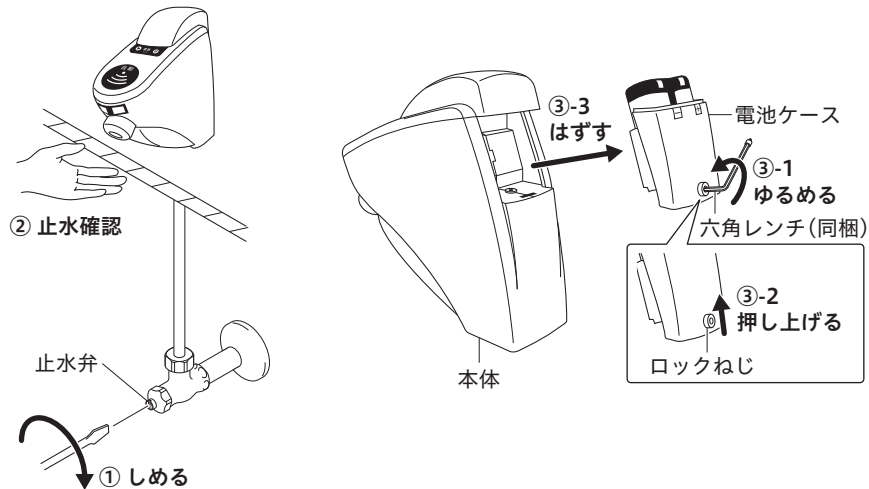
7 ページ

取り外し方法

長期間使用しない場合や、万一自動吐水が正常に行われない場合等、必要に応じて本体を取りはずして元の立水栓に戻すことができます。

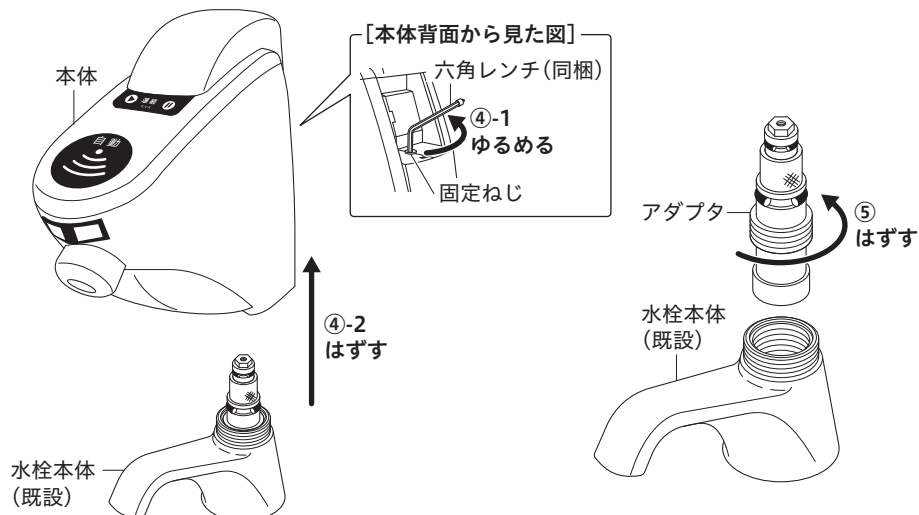
- ① 止水弁をしっかり締めます。
- ② 手を差し出してセンサーを感知させ、水が出ないことを確認します。
- ③ 本体背面にあるロックねじを六角レンチで緩めて、ロックねじを指で押し上げながら電池ケースを本体から取りはずします。

【お願い】ロックねじは緩めるだけで、取りはずさないでください。



- ④ 本体背面にある固定ねじを六角レンチで空回りを繰り返すまで緩め、本体を真上に持ち上げ取りはずします。
- ⑤ モンキーレンチをアダプタの六角部にかけ、アダプタを取りはずします。

【お願い】水栓本体と一緒に回らないように、手でしっかりと押さえてください。立水栓へ戻す際は、「水栓ハンドルの取りはずし」を参照し、逆の手順で組み立ててください。



8 ページ

404727-02